

2026年 青谷地区公民館長だより 2月号



よら
よら
よら
よら

公民館

青谷に住み続けたい・・・



大好きだった郡部出身の先生が、高齢の夫婦2人暮らしになったために、鳥取市内の駅近くのアパートに引っ越しされました。日々にお会いして話をする機会があったので、市内はどうですかと尋ねてみました。多分、

「やっぱり、長年住んだ土地の方が良かった。」
と言われるだろうと思っていました。すると、

「市内は住みやすいよ。生活に必要なものは歩いて行ける所にあるから快適だよ。早く引っ越しせばよかった。」と言われました。

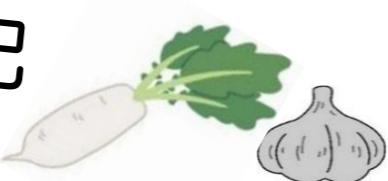
私は自分の耳を疑いました。住み慣れた土地の方がいいはずなのに・・・。

しかし、冷静になって考えてみると、自動車が運転できなくなり、遠くまで歩くのも辛くなってしまったら、どうやって食べ物を確保するのだろう、医者に通うのかと。

今までのまちづくりは、だんだんと衰えてきた分野を現状に戻すことに一生懸命取り組んできましたが、少子高齢化の進んだ今は、プラスして生活の困りごとを解決することも必要になるのではないでしょうか？

それを誰がする・・・？

とくさんの畠日記



家庭菜園も AI の時代？

少し前、野菜づくりについて詳しい人から、YouTube に動画が載っているよと聞きました。確かに「ソラマメの育て方の動画」で検索すれば、分かり易い動画がたくさん出てきます。これはいいと思ってたまに使っていました。しかし、秋に植えたそら豆の主茎が、寒風に叩かれてかわいそうだったので主茎を切ろうかと思ったとき、YouTubeなら全体的な作り方はよく分かりますが、ポイントを絞って聞きたいことを搜すのは向かないで、「AI に聞いてみよう」と思いました。Gemini(Google の AI)を出して、「今は1月末、ソラマメの主茎が寒風に叩かれています。主茎は切った方がいいのでしょうか？」と聞きました。すると、

「今切るのが適切な時期ですが、雪が降るときは控えてください。」と答えられ、なぜ雪の降るときはいけないのかの理由や、いつ切るのが良いのかなど、丁寧に教えてくれました。なるべく長くそのままにして光合成ができるようにするのがよいという考え方もあり、どれが正しいかは分かりませんが、分かり易い説明ですね。



種蒔きが早過ぎたか、主茎が大きくなり過ぎたソラマメ

AIさんの言う通り、いい天気が続いたら切ろうと思います。
家庭菜園も AI に頼る時代が来るのでしょうか…？

シリーズ 知っていましたか、青谷のこと？

青谷かみじち史跡公園の来訪者は、町外者が多い…

先日、市内の公民館長の集まりのときに他の公民館の方から、「かみじち、行きましたよ。とっても良かったですが、町内の人はありません来られないようですね。」と言われました。そこで、本当にそうなのか史跡公園の方に聞いてみました。

結果は、オープンの年には、町内のサークルや子ども会等の団体が来館されたそうですが、その後は、町外者の割合が高くなつたということです。「灯台下暗し」と言いますが、遠くばかり見ていて、近くの良さには気がつきにくいのはよくあることですね。また、1度行ったら一通り見たということで、もう行かないという人も多いようです。

そこで、展示物や体験活動は最初と違うのか聞いてみました。すると、展示物については数ヶ月毎にテーマを決めて展示を変えており、現在は12月から4月まで『弥生の装い』と題して、勾玉（まがたま）や管玉（くだたま）などのアクセサリーを多く展示してあるということでした。つまり、去年ご覧になったものではないものが沢山見られるということです。

また、体験メニューについても、子ども用の安価な「勾玉づくり」等が主でしたが、現在では幼児向けに室内で楽しめる「お宝発掘体験」とか、ちょっと高価な「大人の勾玉・管玉ブレスレット」など、大人から子どもまで楽しめるように、バリエーションを増やしたことです。基本的には前日までに予約が必要ですが、物によってはその場で申し込みができるものもあるので、受付に聞いてほしいとのことでした。



新 大人の勾玉

因みに、体験活動を子どもたちにさせていた家族から、「こんなに長い時間スマホを見ていない〇〇ちゃんを見るのは初めてだ」と言われたこともあるそうです。

「一度行ったからもういい」と言わず、展示が変わる毎に行くとか、孫を連れてバージョンアップした体験をするとか、やってみてはいかがでしょう。きっと新しい発見があるはずです!!

おれに

青谷中で CHA³(チャチャチャ)プログラムという、働き方や生き方などのテーマに沿って自由に話す事業がありました。私は進行補助という立場で参加しました。中学生と大人が小グループになって、本来なら大学生がグループ内で話を回すのですが、今年は青谷高の生徒19人が、その役を請け負いました。中学生が大人や高校生と話をする機会はあまりないので、青谷中の生徒も青谷高の生徒も大人も、貴重な体験になったようです。

特に青谷高の生徒は、大学生のする役をよく果たしてくれたと感心しました。こういう機会を大切にして、将来町を背負って立つ若者が育つたらいいなと思いました。